

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え

TSUNOBUE

2020年12月20日

第431号



社会福祉法人
小羊学園

住 所 〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町2709-12

電 話 053-584-3337 FAX 053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人 稲松 義人

印刷所 アド・アール株式会社



12月になるとアドヴェントカレンダーをめくり主のご降誕を待ち望む

—つばさ静岡—

今年は、世界的な感染症の影響で、毎年楽しみにしているクリスマスの行事も例年どおりにはできない。今回、私たちの楽しみは、クリスマスに限らず、皆で集まり、一緒に歌ったり、食べたり、でかけたりということが多くて感じた。私たちの心は、誰かと一緒にいて、分かり合い、分かち合うことで支えられているような気がする。

しかし、すべての人に本当の意味で分かち合える人や機会があるかというときとそうではない。毎日の生活の中で、誰にも分ってもらえない悲しみや怒りを覚えることは、誰でも経験があるのではないだろうか。伝える言葉(手段)をもっていない、真意を伝えるのは案外難しい。コミュニケーションにハンディのある人たちはなおさらであろう。いつも悲しくて悔しい思いをしているのではないかと思う。

「神さまは共におられます」これが聖書が伝えるクリスマスのメッセージである。私たちはそのメッセージをこの人たちにどのように伝えることができるだろうか。

稲松義人

重症児・者のQOLを考える

つばさ静岡は医療管理の必要な超重症のお子様も含めた医療・生活支援の施設です。医療体制の中で、より豊かな生活ができるよう医師・看護師・生活支援員・栄養士・リハビリが連携してためなな努力をしています。今回はその一部ですが、紹介しますね！

【療育1課】



アコースティックギター演奏の鑑賞中♪

医療を必要とするユニットの『つくしA』は、16名の利用者が生活しています。人工呼吸器使用、酸素吸入、経管栄養等の医療的なケアを必要とされる方が半数以上います。毎日の生活の中では、季節を感じられる掲示物を皆で作ったり、利用者に合った個別の活動を考えて取り組んだりしています。2年程前より会議の中で、毎月2名

の利用者について伝え合う「語ろう会」を実施しています。ケース担当から出されたテーマに沿って職員一人一人が感じているその利用者についてお互いに話をします。



一生懸命に創作中！

「リラックスできる関わり方について」というテーマでは、活動の終わりに余韻を残す方がよいか、クッションの使い方、姿勢の取り方等、「活動の中でよい表情がみられる場面」というテーマでは、人の輪の中にいた方が表

情がよいから活動中は他の人が見える場所に移動した方がよいのでは、等。日常生活の中での反応、表情等を小さなことでも何でも語り合いながら、よりよい支援方法を職員皆で考えていきます。数年前の外出での出来事や学生の時に女性の高い歌声で笑っていた等、数年前の様子を聞くことができるのも今後に生かされる大切な情報になります。

今年度は、「その方の物語を振り返り、未来へつなげていく」という目標があるため、「語ろう会」の中でも保護者からのアンケートで書かれている内容についての話も自然に出るようになります。



みんなで活動♪

入所前の在宅生活の生活の様子（最初は外に出ることに躊躇していたが、他の家族の後押しがあり、外出できるようになった。外出が好きで「行こ

う」と言い、車椅子のテーブルを叩いて出発を催促していた。お風呂が大好きだった。等）

思い出に残っているエピソード（雪を見てびっくりした表情をしていた。片言の言葉で母を呼んでいた。アイスクリームが大好きで家族みんなのものを全部食べていた。アンパンマンの人形シリーズをきれいに並べて遊んでいた。はくせいのカメを見て怖がっていた。等）



アロマキャンドルを作りました♪

家族が大切にしてきたこと（人との触れ合いを大切にしてきた、離れていても絆を大切に、愛情を持って接すると笑顔で答えてくれる喜び、パパの休みには膝の上のせて一緒にすごした。年に2回は一緒に旅行に行き思い出を作った。兄弟と一緒に生活をしてほしいと学校行事と一緒に参加した。等）アンケート用紙いっぱい、家族が思い出しながら書いていただいたも

のがほとんどで読んでいくと以前の様子が目に浮かびます。

日々の利用者とのかかわりの中で、選択する場面が多くあります。本人の気持ち、意思をできるだけ尊重できるように、『語ろう会』での話、保護者からのアンケートの大切な情報等を手掛かりに利用者さんの今後の生活が充実していくように一緒に歩んでいきたいと思っています。

主任補佐 増井留美子

【療育2課】



BBQしています♪

かえではつばさ静岡の一番奥にあるゾーンです。男性6名、女性2名の利用者が生活しています(シヨートステイを含めると10名です)。車椅子で自走したり転がったりして移動できる方もいますが、半数の方は自分で移動す

ることは出来ません。食事の手伝うことで食べられる方もいますが殆どの方が介助で食べています。その中の一人の方は一昨年胃腸を造設しました。つばさ静岡ができて15年。利用者もご家族も、そして職員もその分だけ年を重ねてきました。入所当初は出来ていたことが出来なくなってきたり、体調を崩すことが増えて利用者自身にも変化が見られるようになりました。また入所前の家での生活の様子を聞きたくても家族から聞きとることも難しくなり、どのように育ってきたのか、段々と薄れてきてしまいました。『その方の物語を振り返り、未来に繋げていく』今年の目標はそんな中、これからはつばさ静岡で生活していくであろう利用者の為に生まれたものだと思います。



ボウリングで高得点！

かえでは御家族から話をしてもら

う予定でしたが、コロナ感染のこともあり実施できませんでした。そこで本人のアセスメントシートと家族からのアンケートを踏まえ、会議の場で話をしていくことにしました。利用者一人ひとりについて深めたい事を出し合い、最終的にはその人に合った自分史を作るといふものです。



青空の下でランチ♪

その人に合った自分史って何だろうと考えた時、大事なことは『○○さんらしさ』を共有する事でした。家族からのアンケートは楽しい思い出ばかりではありませんでしたが、それを乗り越え自分の子どもがそれぞれ背負った状況の中でその子らしく生きていくために大事にしてきたことがたくさん書かれています。会議の中ではスタッフの思う『○○さんらしさ』と家族の思う『○○さんらしさ』を共有し、その人らしく生活していく為に何を大事

にしていくなかを話しました。いつもは甘えん坊で寂しがりや、でも家族の中ではお兄ちゃんの立場を良く解っていて責任感があり、通所でお給料をもらってきた時には達成感を感じられるという利用者に何が提供できるのか考え、コロナ感染予防でなかなか人と触れ合えない中でもできるお手伝いを探していこうという話になりました。



広野公園スイーツタイム♪

今回『○○さんらしさ』という点においてスタッフも同じようなイメージを持っていました。しかし今後スタッフが入れ替わり、情報が埋もれてしまうとそこにずれが生じてくるかもしれません。ずれば利用者の生活にも影響します。そうならない為に、その人らしさを理解し、その人ならではの自分史が必要なのだと感じています。

主任 浦野あさ子

ミニミニイベントだより

コロナ禍で大きなイベントが中止となりましたが、利用者楽しんでらおうと各施設で感染症対策を講じながらミニイベントを行いました。

三方原スクエア

今年はコロナ禍の影響で、年度始めから殆どの行事やイベントが中止になってしまいました。楽しみがなくなつて不安や失望に駆られている利用者の心を思い、何かできる事が無いものかと考えた末、小グループ単位のミニ運動会を実施することになりました。(8名×2回)

会場は地元の協働センター体育館を借り切つて、2〜3時間で収まるプログラムとしました。運動着に着替えてラジオ体操から始まり、徒競走、ボールを使ったレース、輪投げなど、グループの特性に合わせて種目を選びました。利用者の皆さんは初めての会場だったので最初は少し緊張気味でしたが、競技が進むにつれとてもハツラツと身体を動かしていました。特にサッカーボールをドリブルしながらパイロンをクリアしていく様は感動ものでした。「パン食い競争」は袋に入ったパンをつかみ取る形となりましたが



白熱したレース展開に！

(コロナ対策の為)、真剣な表情をする方、大笑いしながらいくつもパンを取ろうとする方など、いつもの運動会さながらの気合が入ったようです。競技が終わった後は公園に移動し、おやつにパンを食べて楽しかった時間を振り返りました。今回は地元の公共施設を使う機会を得て、改めて地域のコミュニティの大切さを感じました。また低料金でいろいろなサービスが使えることを知ることができ、今後のイベントの在り方についても地域の社会資源をどう活用するかというヒントになったような気がします。

支援センターわかぎ

支援センターわかぎでは、毎年3大イベントとして夏祭り・秋祭り・クリスマス会を盛大に行っていました。利用者・保護者・職員をはじめ、地域住民の方や学生ボランティア、関係施設の方にご協力して頂きながら行なってきましたが、今年度は新しいイベントの楽しみ方を模索しながらの1年となりました。日常の楽しみとなる外出や旅行も縮小開催となる中で、季節を感じる事のできる3大イベントだけはなんとか形にしていきたい、という思いの中で、利用者皆様のお力をお借りしてとりおこなう事ができました。10月に開催した秋祭りでは、3密対策を講じながら、くじびきやお菓子釣り、カラオケ、落書きせんべいと、例年とは趣向を変えてお祭りを楽しみました。また、毎年行列のたこ焼きは、今年も大好評で、皆様の笑顔をたくさん見ることができました。普段生活している環境を大きく変更する事なく開催した事で、安心して行事に参加する事ができた方も増えました。

12月中旬にはクリスマス会が控えています。催しや会食、クリスマスプレゼント配布等、普段通りの行事は難しいかもしれませんが、感染症対策に配慮しながら、利用者全員が心から楽し

めるイベントにしていきたいと思えます。



お菓子釣りを楽しみました！

つばさ静岡

焼津ふいっしゅーなどの海釣り体験。今年度は新型コロナウイルスの蔓延で、御家族の面会制限や大きなイベントの中止等、利用者の生活も大きな影響を受けました。施設内でも感染を予防する対策を講ずる必要もあり、何となく全体的な閉塞感を感じながら生活を送っていました。その中でどのゾーンも頭を悩ませたのは外出企画です。テーマは「3密を回避した外出」。試行錯誤した結果、企画したのは海釣り体験でした。外出日は前日までの雨もあがり、外にでるには気持ちの良い7月の陽気でした。海の横に公用車を



海の潮風を感じながらのんびりと

つけタープを張りシートを用意しました。周囲には2〜3人の釣り人がちらほら。ソーシャルディスタンスも確保できるベストな環境。さびき釣り体験では利用者は不思議そうに釣竿を職員と持ち、釣竿がブルブルと震えアタリが来てはしゃぐ職員を見て呆れるように笑っていました。利用者はバケツの中で泳ぐ釣れた2匹の小魚をジューッと目を丸くして見ていたのが印象的でした。その後楽しみにしていたお弁当を食べ、海の潮風を感じながらのんびりと皆でシートに寝転がり、さざ波の音に耳を傾けて過ごしました。開放的なその環境はコロナ禍ということを一瞬でも忘れさせてくれる貴重なひとときでした。

小羊ディケアホーム

春秋に行う日帰り旅行は利用者の皆さんにとって大きなイベントです。これまでのように県をまたいでの外出は難しく、市内での外出に変更し計画、実施しました。個室への配慮も頂き、窓から見える漁船を見ながらの豪華な食事に、しばし日常を忘れ旅行気分を味わうことが出来ました。

活動では、さつま芋、ブロッコリー、大根と立て続けに収穫を迎え畑は大忙しでした。収穫に感謝し、さつま芋を皆さんで味わうのがディケアホームの恒例行事です。調理への配慮等例年以上に気をつけながら、さつま芋のモンブランやスイートポテトを作り秋の実りを味わい楽しむことが出来ました。



室内装飾を皆さんで制作しました

マルカート



毎月行われている誕生会風景

マルカートでは、コロナ禍で様々なイベントを中止してきました。そんな中、毎月大切に行っているのが誕生会です。コロナ禍であってもなくても誕生日は、利用者一人ひとりのかけがえのない日。規模は縮小していますが、歳を重ね、家族や仲間たちと築き上げた思い出を振り返る大切な時間。感染症の拡大を受けて、心や身体に余裕がない今だからこそ、この時を共に平穩に過ごせられる喜びを分かち合いたいのです。今年から新たなアイテムのくす玉が加わりました。利用者一人ひとりの誕生日の歌を唄った後は、気持ち盛んに、くす玉の紐を引きます。見て下さい、この笑顔を…。コロナ禍でなければ見過ごしかねない日常の中で。

オリーブの樹

11月2日に静岡広野海浜公園に日帰り行楽へ行って来ました。今年はコロナ禍で自粛する事が多く楽しみが減ってしまっている中で、浜松バスの方とコロナ対策を考え安心して利用者さんも楽しんで頂けるプランを計画しました。皆さんが大好きな大型バスに乗る際は消毒等こまめに行い、3グループに分かれてバスを3台借り密を避けるなどの工夫をし、コロナ対策を徹底した中でも楽しんで行く事ができました。まだまだコロナが心配される中で生活になりますが、利用者さんが安心して楽しめる事を今後も考えたいと思います。



広野海浜公園にて☆

私たちのこともっと伝えたい！ 今回は 小羊デイケアホーム の魅力を伝えます

クッキー作りや、畑、木工、貼り絵などの活動に取り組んでいます。季節ごとの行事や社会参加にも力を入れています。個々の利用者が活動選択できる機会を多く取り入れ、意思の尊重を大切にしています。



周囲の環境は
学校や様々な
福祉施設に接
しています

右 地域の方にいただ
いた杉木片を使っ
た作品



下 共同作品貼り絵「鬼滅の刃」



（M）
昨今、頭の体操を兼ね、規則に従い
9×9のマスに1～9までの数字を当
てはめる「ナンプレ」をやっている
す。最初から気を抜かず解いていかな
ければ、最終的に全てのマスに数字を
当てはめることはできません。すぐに
気が散ってしまう自分にはとても過酷
なパズルですが、何度か解いていくと
一つの思いが頭に浮かび上がりまし
た。それは「解こうとしているその問
いは適切か」ということです。最初に
立てた問いが適切でないと得たい解に
辿り着けない。故に解こうとしている
その問いが適切かを見極めることは重
要だと改めて思った次第です。

あ
と
が
き

KOHITSUJI STAFF



リレートーク

Vol.11

横田 佳澄 さん

2015年入職 温心寮
サービス管理責任者

⇐ 右端が横田さん

Q小羊学園を

志した動機は？

前職のヘルパーにて、
知的障害の方への支援
に魅力を感じるようにな
り転職してきました。



Qこの仕事の嬉しいこと、悲しいことは？

利用者さんの笑顔が見られた時が一番嬉しいで
す！またGHの特性を活かし、様々な福祉サービ
スを利用して一人ひとりが生き生きと生活で
きている姿を見るととても励みになります。

Qちょこっとプライベートを教えてください！

猫が大好きです！毎日3匹の猫たちに癒されて
います？

Q誰にリレーしましょうか？ また一言メッセージを！

スクエアの中根さん、いつも助けてくれてあり
がとうございます。私も中根さんの発言力を見
習いたいです。また勉強させて下さいね！

社会福祉法人 小羊学園 新規採用募集中

*小羊学園では、2021年4月採用の入職希
望者の募集をしています。障がい者福祉
に興味のある方、人と関わることが好き
な方、私たちと一緒に働きませんか？

詳しくは、小羊学園ホームページの募
集要項をご確認ください。

小羊学園を支える会

2020年度 寄付金報告

10月～11月分 2,532,103円 (106件)
累 計 5,678,968円 (205件)
多くのお支えに感謝申し上げます

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。
下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局（鈴木）

小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337